**「未来は万里一空の下にある。百川学海、不撓不屈の思いを胸に、いざ、天に挑まん！」**

**年若き同志達へ　２０２０年新春　檄文**

**一教師　山　口　和　士**

**天を見上げると、轟々と鳴る風の中に、万里に連なる碧空は高く、宇宙に繋がっている。あらゆる未来は「万里一空（ばんりいっくう）」の下にあり、古来君子は皆、志（こころざし）を俯瞰（ふかん）し、未来を冷静な目で見据え、山を駆け、緑の大地を割り、平原を目指した。**

**年若き君よ、未知なる世界に挑むことを、決して恐れてはならない。君がこの世に生を受け、今この時代に存在しているのは、必ずその「生」に意味があるからだ。諸君は皆、今は天空に見えなくとも、「無名の君子」、輝く道を拓く「希望の星」なのだ。「百川学海（ひゃくせんがっかい）」、あらゆる川は海に学び、必ず海に至る。学び続けて来た「君子」こそ、必ず「大海」、目標に到達するのだから。**

**私もまた１８歳で、美しい故郷、みちのくの白い雪原の大地を後にし、「志」のために人生を賭けて生きてきた。諸君よ、「不撓不屈（ふとうふくつ）」の思いがあるのなら、決して未来への挑戦を躊躇（ためら）ってはならぬ。故郷の山河、島々、荒海の神々は、君の背中を喜んで送ってくれるに違いない。**

**年若き同志達よ！「時代」の波は、理由もなく押し寄せ、時に若き君の未来を阻（はば）もうとするだろう。しかし、その「不合理」「理不尽」に、敢然と挑む者のみに、月光は正しく道を照らし、君に「新たな勇気」を与えるだろう。だからこそ君よ、己の旗を高く掲げよ！はためく旗は、「勇気の証（あかし）」。周囲を見よ！共に未来に挑もうとする仲間達が、固く握った拳（こぶし）を天に差し上げ、自らの「時代」を拓こうとしている。それ以上の何がいるのだ。諸君よ、君は孤独ではないはずだ。無心に｢気｣を高め、静かなる大地を、草燃える平原を、凍れる氷原を、仲間と共に割って進むのだ。**

**思えば、この国は何度も愚かな騒乱の嵐や、地震や豪雨、襲い来る天災のために、血の涙を流した。しかし、数千年にわたって苦しんできた小さな島国日本を、いつも救ってきたのは、故郷の山河を信じ、海を、島を信じ、逆境の中から立ち上がり、この世の理不尽に、まやかしの権威に堂々と戦いを挑み、未来への架け橋を築いてきた「輝く瞳を持った若者」であった。君もまたその一人ではないか。**

**諸君よ、君は何のために学ぶのか。「ただ、己の未来のために」とのみ応えるのなら、それはあまりに寂しく悲しいことだ。君が「至誠通天（しせいつうてん）」の剣を抱き、挑む「未来」には、必ず己を賭ける価値がある。君を待っている､未だ見ぬ友、恋人、家族、仲間、民人（たみびと）のために、君が将来出遭う全ての者達のために、今こそ堂々と「天」に、「己」に恥じない勝負をせよ！それが「学ぶ」ことの、｢生きる｣ことの意味であり、何世代にもわたって諸君の血流に刻まれた遺伝子の、「何億光年にも連なる未来を拓く」意味なのだ。**

**センター試験は、年若き同志たる「君」の、「真実」を自ら追求するための、最初の関門。いつもどおりの姿勢でペンを握り、焦らず、慌てず、冷静に問題に向かえばよいのだ。全ては「勇気」から始まる。不安になったら「万里一空」の高みを思い、これまでともに学んで来た仲間たちの顔を思い出せ！若者としての「正義」を貫き、再び愚かな騒乱を招こうとする世界中の黒衣の識者たちに、仲間とともに敢然と立ち向かい、「平和」を守り続けることを決して忘れてはならぬ。そのために、君らの「意志」と「勇気」を強く磨き、あらたな「時代の旗」を天になびかせよ！今こそ、諸君の時代が始まる。**

**年若き同志たちよ、諸君がいる限り天は「意志」の光に満ち、「勇気」は人々を導き、この国に「正義」は生き続ける。いざ！己の「旗」を掲げて、振り返らず一気に、「未知なる大地」を駆け抜けよ！**

**私は白髪になった今でも、一陣の風となって諸君とともにある。諸君の勇姿を見届け、新たなる混沌に立ち向かうために、烈風の氷原に足を踏み留め、君を待ち続けている。月光は高く白く凍った大地を**

**照らし、崇高な哲学を風音の中に語る。同志達よ、新たな海が光の向こうに待っている。**

**宮城県宮城野高等学校３年生諸君の健闘を祈る！**